第 15 回：ライフスタイル

会長　田中 仙堂

「ライフスタイル」という言葉は、最近、単なる「生活様式」の意味でつかわれることも多くなりました。しかし、生活様式だけではなく、人生観・価値観なども含めた個人の生き方を問題にしたいと思い、「ライフスタイル」としました。

ライフスタイルに合わせるというと、椅子やテーブルの生活様式への対応という表面的なことに目を奪われます。しかし、生活文化史を振り返れば、明治 31 年の大日本茶道学会設立からそのあと半世紀くらいは、日本人が「正座」する割合は、まだこれから増えていく時期であったように思います。というのも、座法を含めて、武士にのみ要求された礼儀作法や道徳が、国民全体に要求されるようになってくるからです。

居士が設立時点で問題にしたのは、生活の洋風化という表層的なことよりも、四民平等の世の中になって、文化も封建的な身分階層に分かれたものではなく、国民的なものになって欲しいとか、国民全般の知識水準が向上していく時代に、旧態依然とした伝授方法で良いのか、といったことです。その根底には、近代の人生観・価値観の変動に対応しなければ、茶道の未来はないという危機感があったのです。居士の問題提起によって、人々の茶道に対する見方が変わり、茶道は近代社会への適応を成し遂げました。

居士の深い洞察に近づこうとすれば、生活様式の変化への対応にとどまらず、人や自然、人と人との関係性が変化していくことも含めて、茶道においても「ライフスタイルに合わせる」ことを目指すことが求められているのだと思います。

平成 27 年 11 月発行　会報「えんじゅ 85 号」掲載